

目指す学校像	生徒が、希望をもって登校し、笑顔で活動し、満足して下校する学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 学力の定着・向上をめざし、ICTを活用した授業の工夫・改善 2 きめ細かな指導をととした安全・安心で心潤う教育環境づくり 3 保護者や地域等との連携協力の推進 4 一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地のよい学校をつくる教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学びに向かう力等の「各教科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ国語、社会でやや高く、数学、理科、G・S でやや低い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語はすべての項目で埼玉県・全国の平均を上回っているが、数学の「図形」「資料の活用」等、論理的に考えたり傾向を読み取ったりする理解が低い。 ○数学、理科、G・S への関心が高まっておらず、生徒が学習することの意義を実感できるようにすること、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「与野西中版 STEAMS TIME」の創出	①5 教科について、ミライシードやスタディサプリを活用し、生徒一人ひとりの取組状況や個々の課題を把握させ、目標をもって学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、各教科における本校の課題を分析し、校内研修を通してより効果的な手立てを設定し、学校全体で生徒の学力の向上を図る。	①市の学習状況調査において、「各教科の勉強は好きですか」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合が市平均を上回ることができたか。 ②調査の分析結果について検討する校内研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを各教科や学年ごとに設定することができたか。また、数学の「図形」「資料の活用」に関する問題について埼玉県、全国の平均を上回ることができたか。						
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「自分にはよいところがある」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒のけがはなかった。が、コロナが心配で登校を控える生徒が複数いた。 (課題) ○月1度の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり回避したりする力をはぐくむことが課題である。 ○コロナ禍における不安など、生徒の心身に与える影響が大きいことから、生徒一人ひとりの心身の状況を的確に把握し、適切に支援・相談していく体制、仕組み作りが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた「安全教育」の推進	①年3回の心と生活のアンケートの他に、学校独自のアンケートを年2回実施し、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。 ②教育相談部会や特別支援部会では、生徒の状況を共有するとともに、適切な支援を行えるよう学校全体で組織として対応する。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて「生徒指導・教育相談」「特別支援教育」に係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②年5回のアンケートを計画的に行い、対応が必要な案件については、その日のうちに組織として対応することができたか。						
3	(現状) ○今年度、学校運営協議会4年目になる。学校、家庭、地域が、それぞれの立場で何ができるか熟議を重ねてきた。まずは、本校のことを地域に知ってもらうために年に3回公民館等で美術の作品展を実施し好評をいただいている。 (課題) ○今年度は、熟議の中で具体的な取組を決定し協働に向け大きく前進させる。研究指定を受けている「学校安全」や昨年度から見直しを図っている「校則」について、学校運営協議会を有効に活用し方針を固めていくことが課題である。	・目指す生徒の姿の実現に向け、学校、家庭、地域で協働する。 ・「清らかな心」を育てる取組の推進	①学校運営協議会について、学校だよりやホームページ等を活用し、目指す生徒の姿や協働の取組について家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校行事等については、開催方法を工夫し、地域の方にも参観できる機会を作り、学校の教育活動や生徒の成長に対する関心を高める。	①学校のホームページをリニューアルし、学校運営協議会等の学校の様子を広く発信することができたか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて「保護者・地域との連携協力の強化」に係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。						
4	(現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○教職員のICTのスキルが二極化している。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。 ○今年度導入のスタディサプリの活用方法について全職員で研修を重ね、共有することが課題である。	・職員全体が学び合い、一人ひとりが力を発揮できる誰もが居心地のよい教育環境づくりの推進	①年間6回のICTに係る校内研修を実施し、ICTの活用方法について、すべての教職員が学ぶ機会を作る。 ②スタディサプリの導入、授業計画の策定、授業改善など、活用方法について全職員で共通理解を図れる機会を作る。 ③ICTを活用した「こういう授業がしたい」「業務をこうしたい」などの教職員の意見を集約し、より実践的な校内研修を行う。	①すべての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学校自己評価に係る教員アンケートにおいて「校内研修」のICTに係る項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③スタディサプリは1学期中に運用を開始し、教員が授業改善に役立てる状態になったか。						